

2026年4月27日

【お知らせ】

会社名 B R A N U 株式会社
代表者名 代表取締役 名富 達也
(コード番号: 460A 東証グロース市場)
問合せ先 取締役 C F O 宇都宮 久之
(TEL 03-5413-4820)

AI 駆動型開発への移行により開發生産性 1.3 倍～2 倍向上へ

建設 DX プラットフォーム事業を展開する BRANU 株式会社（本社：東京都港区、代表取締役：名富 達也、証券コード：460A）は、「AI 駆動型開発体制」を4月より本格始動したことをお知らせいたします。

本体制は、自社開発の中小建設企業のデータベースが蓄積された AI 基盤「BRANU BRAIN（ブラニューブレイン）」と「どのように作るか」を定義する SSOT（Single Source of Truth）の2つの要素によって構成されており、開発を「意思決定」「プロダクト設計」「開発」の一連の流れとして再構成し、統合基盤上で一体的に運用することで、一貫した開発体制への転換を進めています。これにより、最終的には開發生産性が1.3倍～2倍向上（当社試算）と見込んでおります。

詳細は別添をご覧ください。

以上

AI 駆動型開発への移行により開発生産性 1.3 倍～2 倍向上へ



AIDD

AI-Driven Development

建設 DX プラットフォーム事業を展開する BRANU 株式会社（本社：東京都港区、代表取締役：名富 達也、証券コード：460A、以下ブランニュー）は、プロダクト開発において、AI を前提とした「AI 駆動型開発」体制への移行を 2026 年 4 月より開始いたしました。

■体制移行の背景

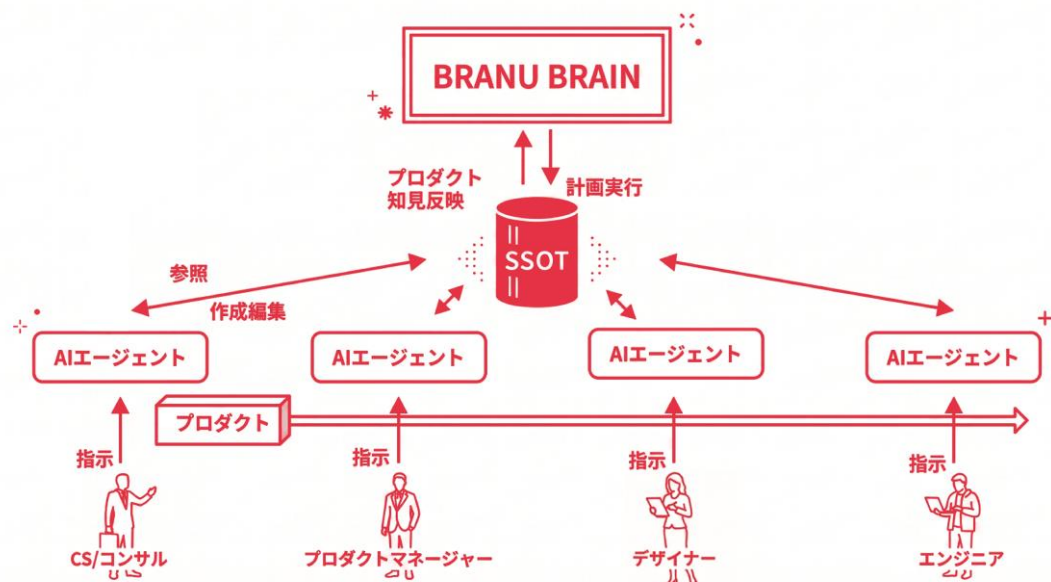
近年、AI の進化により、コード生成や設計支援などソフトウェア開発の効率は大きく向上し、「作ること」のハードルは下がりました。これに伴い、プロダクト開発においては「何を作るべきか」という意思決定の重要性がより一層高まっています。

このような環境下では、意思決定から設計、開発に至るまでを一貫した構造として捉え、判断基準や仕様の整合性を保ちながら運用することが、品質や生産性を左右する重要な要素となります。

そこでブランニューは、AI を単なる実装支援ツールではなく、意思決定から開発までを一体的に支える基盤として位置づけ、プロダクト開発の構造そのものを再設計しました。本取り組みでは、開発を「意思決定」「プロダクト設計」「開発」の一連の流れとして再構成し、統合基盤上で一体的に運用することで、一貫した開発体制への転換を進めています。

■開発プロセスの再構成

AIDD (AI駆動開発) のイメージ



本取り組みは、「何を作るか」を導き出す AI 基盤「BRANU BRAIN」と、「どのように作るか」を定義する SSOT (Single Source of Truth) の 2 つの要素によって構成されています。

「BRANU BRAIN」

意思決定の上流には、当社の AI 基盤「BRANU BRAIN」があります。

「BRANU BRAIN」には、6,200 社以上の建設中小事業者の顧客データや市場環境、過去の意思決定とその結果が蓄積されており、「何を作るべきか」という判断を、経験や勘ではなく、データに基づいて行うことが可能となります。

SSOT

SSOT は、プロダクトに関するすべての判断基準を一元化し、「唯一の正解データ」として管理する仕組みです。「BRANU BRAIN」が「何を作るか」を導き出すのに対し、SSOT はプロダクトの方針や機能仕様、UI/UX ルール、設計制約などを統合し、「どのように作るか」を一貫した基準で定義します。

SSOT により、開発に関わるすべてのメンバーと AI が同じ基準で判断できる状態が整い、従来必要とされてきた要件のすり合わせや認識の調整といった工程そのものが不要になり、コミュニケーションコストの削減につながります。

この構造により、要件定義から仕様化までが分断なく進むようになり、手戻りや調整工数といった工程自体が発生しにくくなることから、開発生産性は 1.3 倍～2 倍（当社試算）向上する見込みです。

■代表取締役 名富 達也のコメント

AI-Driven Development for Scalable Products !

AI の活用により、開発はこれまでにないスピードで進められるようになりました。一方で、そのスピードが上がるほど、品質のばらつきや意思決定の分断が新たな課題となります。

そこで当社は、開発の中心に「BRANU BRAIN」と SSOT を据え、仕様や設計、判断基準を 1 つに集約することで、スピードと品質を両立できる AI 駆動開発体制を構築しました。AI が生成と検証を担い、人は構造や意思決定に集中する。この役割分担により、高速でありながら安定した品質のプロダクト進化を実現します。

機能単体での差別化が難しくなる中で、私たちの競争優位はプロダクトそのものではなく、「進化し続ける開発の仕組み」にあると考えています。AI 駆動開発は、「CAREECON Platform」の価値を継続的に高め続けるための成長エンジンであり、同時にそれを“自己進化し続けるプロダクト”へと変えていくための戦略です。

今後もこの取り組みを通じて、プロダクトの進化を加速させるとともに、中小建設事業者の生産性向上に貢献してまいります。

■エンジニア採用について

ブラニューでは、AI 駆動型開発体制のもとでプロダクトの進化を加速させるエンジニアを募集しています。AI を前提とした開発環境において、設計や意思決定など高付加価値な領域に挑戦したい方からのご応募をお待ちしております。

採用サイト URL : <https://recruit.branu.jp/entry>

■CAREECON Platform について

「CAREECON Platform」は、建設事業者向けマッチングサイト「CAREECON」とマーケティングから採用管理、施工管理、経営管理まで行える建設業向け統合型ビジネスツール「CAREECON Plus」からなる建設 DX プラットフォームです。SMB に特化した機能開発と、導入から運用まで伴走し続ける DX コンサルティングサービスで、契約社数は 6,200 社（2026 年 1 月末時点）を超えています。

URL : <https://careecon.jp> (CAREECON)

URL : <https://careecon-plus.com/> (CAREECON Plus)

■BRANU 株式会社について

BRANU 株式会社（ブラニュー）は、「建設業界をテクノロジーでアップデートする。」というビジョンのもと、建設 DX プラットフォーム「CAREECON Platform（キャリコン）」を通じて建設業界の変革に取り組んでいます。

社名：BRANU 株式会社

証券コード：460A

本社所在地：東京都港区六本木 6-1-24 ラピロス六本木 4F

設立：2009 年 8 月 18 日

代表者：代表取締役 名富 達也

事業内容：建設業向けデジタルトランスフォーメーション事業

URL : <https://branu.jp> (コーポレートサイト)

【本件に関する報道関係者からのお問合せ先】

BRANU 株式会社 経営企画室 IR 推進チーム 吉田

mail: investorrelations@branu.jp